

令和8年度 前期

政務調査研究報告

飯田市議会公明党

報告者 小林真一

視察先・調査事項

1.【玖珠町】 衛星データを活用したブランド米生産の取組

日時 令和 8 年 6 月 29 日 14時00分～16時00分

場所 大分県 玖珠町

2.【大分市】 グリーンスローモビリティを活用した地域公共交通の取組

日時 令和 8 年 6 月 30 日 10時00分～12時30分

場所 大分県 大分市

3.【杵築市】 移住定住・空き家対策・地域おこし協力隊などの連携の取組

日時 令和 8 年 6 月 30 日 14時30分～16時00分

場所 大分県 杵築市

玖珠町
人工衛星データを栽培管理に活用したブランド米
「くす天空の輝き」の生産の取り組み



・玖珠町の概要

玖珠町は大分県の西部に位置し、総面積は286.6km²、県全体の4.5%を占めている。九州では第一の河川である越後川の上流、玖珠川が東西に貫流し、落差が大きい三日月の滝、清水瀑園をはじめ滝や湧水地が随所に見られる。

また、玖珠盆地を取り囲むように我が国最大の二重メーサー台地の万年山、伐株山、岩扇山、鏡山がそびえ、北境に接して取馬溪、南境には九重連山さらに東方には4千ヘクタールに及ぶ日出台原野が広がり、豊かな山なみの懷に抱かれているような印象を受ける。

町内にはJR久大線が通り、主要幹線道路として東西に大分自動車道、国道210号、南北には国道387号がとおり、福岡・九州・熊本へ90分圏内大分市には60分圏内に位置する交通の要衝となっている

人口：13,298人（令和8年5月末現在）

1. 「くす天空の輝き」取組の概要

目的

- ・人工衛星データを活用し高品質のお米を安定的に生産することで、玖珠米のさらなるブランド化を図り、農家の所得向上を目指す。

1. 「くす天空の輝き」取組の概要

①取り組みの経緯

- ・米価格の低下(R4概算:30kg6,000円)により、水稻生産の持続可能性に危機感を持つ。
- ・町長の発案によりブランド米の創出による認知度向上、農家取得の向上を目指すためのプロジェクトを開始
- ・大分空港の宇宙港プロジェクトと連動し人工衛星を活用した先進的な米づくりの検討を開始。
- ・青森県の「青天の霹靂」で使用されている晴天ナビの事例を参考に現地視察を実施。
- ・令和7年に「くす天空の輝き研究会」を発足し、システムを活用した水稻栽培開始(会員26名)

1. 「くす天空の輝き」取組の概要

②衛星データを活用しての栽培

・(株)ビジョンテックの「AgriLook(アグリルック): 水稻補助農業情報提供サービス」を利用。

・「AgriLook(アグリルック)」…人工衛星技術を用いた営農支援システムで、日々刻々と変化する作物の生育状況や栽培環境を的確にモニターし、高品質な農作物を効率的、安定的に生産するための農業をサポート。利用に必要なのはインターネットにつながるパソコンやスマートフォン等で、Webサイトにアクセスすると、生育状況マップ、気象メッシュ情報や、栽培履歴データベースの閲覧、そしてデータ登録が可能である。

・この衛星データを活用し「生育管理」を行い、圃場ごとに米の一番良い状態の刈取り適期を生産者に知らせる、適期に刈取ることにより、水分が適量で胴割れていない均一の米が収穫できる。

・人工衛星・気象データからのタイムリーな情報や集計された記録を活用し、年間を通じて圃場の「今」を把握することが可能である。

1. 「くす天空の輝き」取組の概要

③くす天空の輝きの生産基準と条件

【生産基準】

- ・玖珠町に住民票または住所を置く法人等が玖珠町内の農地で生産した米
- ・特別栽培米
- ・JA米(種子更新、生産履歴が明確であること)
- ・品種は「ひとめぼれ」

【条件】

- ・特別栽培米(JA栽培基準)であること
- ・農産物検査…1等米であること
- ・玄米たんぱく質含有量の低いお米であること

【販売基準】

- ・粒圧2.00mm以上(大粒な米)※玖珠米は1.85mm以上
- ・精米後、真空パック包装する

2. 「玖珠米」(品種:ひとめぼれ)について

■ 水稲栽培に適した土地

・令和5年度の大分県17市町村の米の全品種一等米比率は平均50%。玖珠町の1等米比率は大分県トップの82%と米づくりに適した、「土」・「水」・「気候」の3条件が揃った地域。

■ 寒暖差が大きい(玖珠町生まれ、高冷地育ち)

・玖珠町は、夏に全国でも最高気温の常連の日田市、冬はスキー場を有し、九州最高峰の九重連山がそびえる九重町などに隣接した年間・日間の寒暖差が大きな町。

また、世界的にも珍しいメサ・ビュート地形の山々に囲まれた「盆地」地形で、出穂後の一番甘みをつける夏以降は、昼は30度を超えるが、夜は10度台と日間差が大きいのも特徴。

激しい寒暖差は天然のマッサージとなり、お米に栄養を溜め込むため甘みが強いとわれている。

■ 九州最大の河川 筑後川の上流の綺麗な水で育てられた米

・筑後川の上流に位置し、九重連山や万年山から染み出た、綺麗な水で育てられている。

■ 平成の大嘗祭米、JA九州クルーズトレイン ななつぼし in九州

・平成の大嘗祭(主基殿【玖珠町】 悠紀殿【秋田県五城目町】)に選ばれたお米で、JR九州の豪華列車ななつぼしでは、2013年10月の運行当初から、食材として使用されており、美味しさは既に折り紙つきであり、日本穀物検定協会が実施する、米の食味ランキングでは最高位の「特A」を連続で獲得し、令和6年産は全国で唯一ひとめぼれの特A米となっている。

3. ブランド米づくりの目的(農家所得向上)

■ 米消費量・取引価格

【1人1年当たり米消費量】

・昭和37年(118.3kg) ⇒ 平成2年(70kg) ⇒ 令和2年(50.7kg)

↓ 日本人の米消費量の減少

↓

■ 米の価格

【米の買取価格(30kg)】JA⇒農家

・令和4年産 特別栽培米(6,100円) ※令和3年産 6,700円 令和2年産 7,100円

↓ 農家所得の減少。米生産は人件費が見込めず赤字。耕作放棄地も増加

↓

3. ブランド米づくりの目的（農家所得向上）

①米消費量・取引価格 ②米の価格



米生産農家の米代を、玄米30kg 10,000円を目指すため、大分空港で宇宙港の取組が行われていたことに着眼し、玖珠町では米の生産に衛星を活用したAIシステムを活用し、玖珠町の新たなブランド米（安定した美味しい米）づくりの取り組みの始まり。

4. 「くす天空の輝き」とは

■ネーミング

- ・「天空」は、地表を見守り続ける太陽や人工衛星を。
- ・「輝き」は、秋に収穫されるお米の黄金色をイメージ。

■生産者【くす天空の輝き（良食味米）研究会】

・くす天空の輝きの生産者は、良食味米づくりや、安心・安全な米づくりの研修を行い、仲間と切磋琢磨し、米づくりに情熱を注ぐ「熱！農家集団」が生産。会員：26名（令和7年度）

※令和7年度 九州のお米食味コンクールin宮若

自治体部門「第3位」 九州各県1,205検体が出品

4. 「くす天空の輝き」とは

■「くす天空の輝き」とはどんな米

・水稻農家は長年の経験で、これまで、追肥、刈取日を決めていたが、客観的な根拠である衛星データを活用する事により、「農家の匠(経験)」に「最新技術」を掛け合わせて生産した、『玖珠米』を、更に以下の約束事を付け加え、厳選した米を、『くす天空の輝き』と呼ぶ。

【概要】

- ① 衛星データを活用し「生育管理」を行い、圃場ごとに米の一番美味しい刈り取り適期を生産者にお知らせ。(適期に刈り取る事により、水分が適量で胴割れしていない、均一のお米が収穫できる。)
- ② JAおおいたの農薬・化学肥料基準をクリアし、栽培履歴を記録した、「安心・安全の特別栽培米」
- ③ 農産物検査1等米(検査機関:JAおおいた)
- ④ たんぱく含有量の低い米を厳選(食味検査:JAおおいた)
(たんぱく質の少ない米は粘りがあり、甘くおいしい味覚となる。)
- ⑤ 通常の玖珠米、1. 85mm以上の粒厚を、2. 00mmのふりいにかき、大粒な米のみを選ぶ。
- ⑥ 精米したての風味をお届けするために、真空パック包装で販売。

5. 「AgriLook(アグリルック)」 水稻補助農業情報提供サービスについて

①(株)ビジョンテックの開発した「AgriLook(アグリルック)」の活用

・アグリルックは、効率的に高品質な「米」を安定的に生産するための人工衛星を利用した農業ITシステムで、効率的な精密農業を実現する。

5. 「AgriLook(アグリルック)」 水稲補助農業情報提供サービスについて

②システム概要

- ・人工衛星からタイムリーな情報や集計された記録を活用し、年間を通じて圃場の「今」を把握する。
- ・衛星で調べた生育トレンド情報により生育の早さや葉色の変化など生育状況が分かる情報が得られる。
- ・生育トレンドを見ながら必要に応じて中分解能衛星データを取得し、圃場単位の葉色マップ、食味マップを作成して施肥管理、病虫害・気象災害対策、区分収穫などに利用することにより、時系列的・空間的栽培管理を実現する。

6. 今後の取組

①くす天空の輝き、そして玖珠町のブランド化

- ・くす天空の輝きをブランドとして全国に認知を目指し、更に現在販売されている玖珠米、更に玖珠町を全国にPRしていきたい。

②生産者、係機関と協力し、九州のお米食味コンクール、米・食味分析鑑定コンクール国際大会で優勝するブランド米づくりの実施

- ・九州のお米食味コンクール等で、くす天空の輝き研究会で応募し、九州一の米を作る。その後、国際コンクールでも優勝するような米作りを行い、玖珠町の知名度を上げる。

6. 今後の取組

③農家所得の向上を目指し毎年、玄米30kg10,000円以上が農家の収入となる取組の実施

・令和4年産の米の価格:6,100円

⇒ 令和5年産:6,700円

⇒ 令和6年産:11,300円

⇒令和7年産:16,800円

当初、この取組が目標としていた、10,000円を概算金額が超えてしまったが、今後、もし金額が下がっていく事があっても、くす天空の輝きは、30kg10,000円以上農家に入るよう努めたい。そのためのブランド米にしていきたい。



道の駅のレストランでのブランド米の提供

午後の視察に備え、昼食をとるためにたまたま寄った道の駅「童話の里くす」内のレストランでは、メニューのご飯がすべて「くす天空の輝き」になっていた。

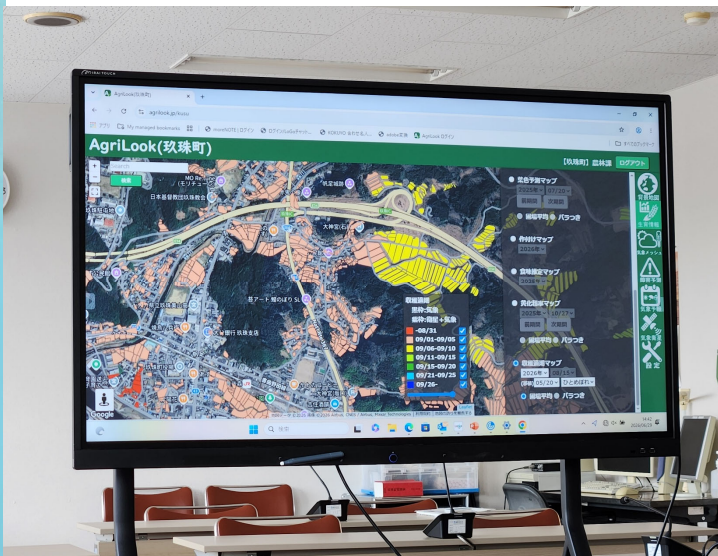
思いがけず、視察前の試食となった。

お米の香りがしっかりとあり、甘みも十分に感じられたおいしいお米であった。

道の駅でも「くす天空の輝き」
は販売しておりしっかりPR



レストランメニューも
リーズナブルな価格



アグリルックでの
農地の様子

様々なデータを閲覧可能

個人情報に記載されているところもあるため掲載できる写真は
この画像のみ

最終的な判断はやはり生身の
人間が直接生育状況を見て判
断するが、目安としては非常に
有効である

玖珠町 視察 まとめ

●これまで農家が経験や勘に頼っていた米づくりをデータに基づく科学的な栽培を行うという側面もあり、圃場の状態をアプリで提供確認し、適切な管理と適切な時期に収穫するという判断ができる点はこれからの新しい農業の形として大きな可能性を感じた。また、農業に従事するためのハードルが下がったのではないかとの見解をいただいた。こういった面でも当市への導入の可能性を感じた。

●当初は青森の「晴天の霹靂」の生産システムを比較対象としていたが、圃場面積や中山間地域の地形などに、より対応できるシステムとして「アグリルック」を導入した、この点は飯田市の中山間地域への対応といった面で活用の可能性があると感じた。

●アグリルックの衛星データはヨーロッパの「センチネルⅡ」の衛星画像は無償で活用できるため、このデータを活用し気象データや現地の観測データを独自に計算し発育予測に活用しているとのこと、であり人工衛星の費用は会社としても一切かかっていない。予算面でも大きなメリットがあると感じた。

●「くす天空の輝き」の販売による生産者への還元は来年度の冬に予定されておりR7年産米については今年の冬に初めて清算されるため、どのようなメリットがありどのくらい還元されるかは、現在のところ把握できていない点は少し残念ではあったが、今後状況が分かれば確認したい。

●(株)ビジョンテックに決定した要因として、中山間地域の状況を細かなデータ(1キロメッシュ)で撮れるため中山間地域でも精度の高い画像データが取れることが決め手となったとのこと、飯田市での活用を視野に入れた場合に当市の状況にもマッチできるのではないかと。

●アグリルックは玖珠町専用のシステムではなく、他の自治体でも活用可能とのこと、当市での活用に期待が持てるのではないかと。

●予算面では、衛星データは無料、玖珠町では1年間で約150万円で運用しているとのこと。オプション等もあり自治体の取組みたい内容により金額は決まるため、詳細はビジョンテックへの問い合わせとなる。

●費用対効果の面では今後見えてくるところだが、やっと生産が始まったところであり、現在はブランドの発信やPRに注力しているところであり、将来的には利用者の費用負担など整理する必要性が出てくる可能性はあるとのこと。

ご清聴ありがとうございました

